

12 おおがもれんげまつり
大賀茂れんげ祭

毎年4月下旬頃に開催される大賀茂れんげ祭は、住民によって地域活性化の一環で始められた手作りのイベントです。開始から20年が経過し、現在では地元以外からも来客のある地域資源となっています。また、ピンク色の絨毯が敷き詰められたかのように咲き誇るれんげの花と、空を軽快に泳ぐ鯉のぼりは、日本古来の景観を醸し出しています。



上写真 れんげ祭りのじゃんけん大会。
下写真 田んぼ一面に咲くれんげの花と鯉のぼり。

14 みんな あらいのちょうじゃ
民話 荒井の長者

昔、都で敗戦し、追われる身となった武士の一角が大賀茂にたどり着きました。頭領は神明様を信仰しながら苦勞を重ねて豊かになり、村人から「荒井の長者」と呼ばれるようになりました。しかし、その噂が追っ手に伝わってしまうと、頭領は親切にしてくれた村人を戦に巻き込みたくないと考え、屋敷を引き払い、船で遠くへ去って行きました。その際、持ちきれない財宝は裏山(三倉山)に埋めたと伝えられています。



上写真 関係写真の馬頭観音。
下写真 関係写真の神明神社。

13 かなやまいせき
金山遺跡

金山遺跡は、平安時代の人々が砂鉄を溶かして鉄や鉄製品をつくった製鉄作業場の跡で、下田市指定史跡です。過去4次にわたって発掘調査が実施され、製鉄炉の壁片やフィゴなどが出土しています。遺跡のある緩やかな斜面は今でも鉄の塊(鉄滓)が多く、付近には地元市民団体によって案内板が設置されています。南伊豆地方の代表的な製鉄遺跡で、復元模型が開国下田みなのハーバーミュージアムに展示されています。



上写真 敷地に立つ看板。
下写真 現在の金山遺跡の様子。

15 せんだいせき
洗田遺跡

洗田遺跡は、古墳時代の人々が神まつりを行った遺跡で、下田市指定史跡です。昭和12・13年の発掘調査で勾玉や鏡などが多数出土し、遺跡の眼前にそびえる三倉山の神を祀った祭祀場跡と推定されました。賀茂(かも)の地名と併せ、大和葛城地方を本拠とした古代鴨族がこの地を開拓した証と考えられており、考古学者の間ではよく知られた遺跡です。



上写真 洗田遺跡遠景。
下写真 現在の洗田遺跡の様子。

16 みくらやま
三倉山

三倉山は昔から神々が降臨すると考えられており、その神々を祭るための遺跡が洗田遺跡だと考えられています。また、民話・荒井の長者で財宝が隠された山とされており、倉三つ分の財宝を埋めたとされているため、現在では三倉山といわれています。財宝を探しに山に入ると、腹痛に襲われるとの言い伝えがありますのでご注意ください。



上写真 三倉山に太陽が沈む様子。
下写真 田んぼ越しの三倉山。

18 おおがもさんじんじゃぐらのまい
大賀茂山神社神楽の舞

毎年10月初旬頃、山神社例大祭にあわせて「垂れの舞」「幣の舞」「梅川中兵衛」の三種の神楽が披露されます。山神社は宝暦5年(1755年)大賀茂村に疫病が流行したため、山の安全を祈願する山神と薬師如来の化身が合祀されています。



上写真 地元の人たちに幣の舞を見せています。
下写真 垂れの舞を舞っている様子

17 おおがもいせき
大賀茂遺跡

大賀茂川の流域には多くの縄文～平安時代の遺跡があります。平成8年度に発掘調査された大賀茂遺跡からは縄文時代前期の土器が多数出土し、吉佐美の田京山遺跡と並び、この地域の拠点的な集落であったと考えられています。土器は諸磯式という関東地方の特徴を持つもので、縄文時代の人や物の交流を考える上で、興味深い遺跡となっています。



上写真 現在の遺跡に咲く梅の花。
下写真 現在の大賀茂遺跡の様子。

